

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110612			
事務事業名	山岳博物館管理運営一般経費					会計	一般会計				
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	山岳文化都市の形成										
後期計画掲載頁	100		頁	個別計画		社会教育計画			41		頁
事業期間	平成		年	～	平成		年	根拠法令・要綱等 博物館法			

**事業の概要**  
 山岳博物館への観覧者および市民と近隣住民等に対し、社会教育の充実と活性化を図るとともに、観光の場や情報の提供を行うための運営と、快適な博物館空間の提供を行う。

**事業の目的**  
 来館者の知的欲求を満たすため、快適な空間の提供と健全な運営を行うことを目的とする。

**事業内容**  
 博物館の施設管理  
 博物館の運営

年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	総事業費（決算額）	21,885 千円	23,999 千円	24,572 千円	
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	4,183 千円	6,590 千円	5,946 千円
		一般財源	17,702 千円	17,409 千円	18,626 千円

活動指標	指標名	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	開館日	日	199	317	316	315	100.3%	317
②								
③								

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	入館者	人	12,237	20,920	18,242	21,000	86.9%	20,000
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果 （指標 ）									

**※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等**  
 入館者数増に繋がる具体的な且つ効果的な方策について観光関係機関と十分に連携を図りながら検討する必要がある。

項目	必要性		有効性		効率性		
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
点数	3	3	3	3	2	3	
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	今後の方向性	継続	本館は昭和56年の建築で、平成26年度に耐震改修にあわせてトイレやキューピクル等を改修したが、冷暖房や浄化槽、重油タンクなどに補修や改修が必要な箇所が生じているため、長期的展望に基づき計画的な改修を進める必要がある。 入館者増の対策として、山岳博物館の存在を周知するとともに、観光課、大町博物館連絡会、アートライン推進協議会等との連携を密にして宣伝・周知に努める。また、ライチョウ飼育やカクネ里氷河などの話題性をどう集客に結び付けるか工夫が必要である。				
	評価点合計	17	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110613				
事務事業名	山岳博物館教育普及事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33・37	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等 博物館法						

**事業の概要**  
 自然と人が共生する山岳文化都市の形成につなげる地域博物館として、地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報を分かりやすく興味もてるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるような内容への工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

**事業の目的**  
 北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理をするとともに、これらを活用した教育普及活動を推進する。

**事業内容**  
 企画展「山博にライチョウがやってくる、山岳風景画の世界、大北・安曇野の自然に蝶が舞う」の開催、「付属園まつり」「さんばくこども夏期だいがく」等の開催、山博友の会との共催による「北アルプス館ヶ岳でライチョウを観察してみよう！」等の開催、学校との連携・融合による授業や課外活動の実施、収蔵資料の貸し出し、「山と博物館」の毎月発行、各種観察会や各集会の共催・協力をを行い、問い合わせに対するレファランズ活動を行った。

年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	総事業費（決算額）	4,554 千円	4,273 千円	4,917 千円	
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	202 千円	140 千円	137 千円
		一般財源	4,352 千円	4,133 千円	4,780 千円

活動指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
① 企画展・特別展	回	2	1	3	3	100.0%	2
② 学習会・観察会	回	15	24	18	25	72.0%	25
③ 学校との連携・融合	回	37	41	30	45	66.7%	40

1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
① 企画展・特別展見学者	人	3,323	12,076	11,273	12,100	93.2%	12,000
② 学習会・観察会参加者	人	936	816	1,199	1,200	99.9%	1,200
③ 学校との連携・融合	人	940	1,194	733	1,000	73.3%	1,000

2. 数値で表せない効果  
 （指標）

**※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等**  
 学習会・観察会、学校との連携・融合事業の充実を図りたいが、現状として業務量が大きくなると学芸員等の負担が増大し、他業務を圧迫することとなる。山岳博物館事業のスクラップ&ビルドが必要である。

項目	必要性		有効性		効率性		
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
点数	3	3	3	3	2	3	
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	今後の方向性	継続	博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開し、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動のための、企画展のあり方、教育普及活動の内容や手法等を再構築する必要がある。 学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをするため、事業を更に拡大して取り組む必要がある。 友の会や市民との協働による事業をさらに進める、市民にとって身近な博物館である意識を高揚する。				
	評価点合計	17	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110614				
事務事業名	山岳博物館調査研究事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等						博物館法

**事業の概要**  
博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、独自の活動を進めるほか、国・県や各研究機関等と連携した調査や研究の推進を行う。

**事業の目的**  
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する資料の収集・整理、保存・管理するとともに、これらを活用した教育普及活動を推進するための基礎となる調査研究を行う。

**事業内容**  
ライチョウ飼育技術確立の研究や高山植物の生活史調査、山岳風景画に関する資料調査のほか、信州大学山岳科学研究所との共同研究では鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査(気象条件が悪く氷体の移動調査のみ実施、地質・気象等調査は翌年度に延期)、長野県環境保全研究所との協力協定による温暖化調査等を行った。また、信州大学地域戦略センター及び山博友の会と連携し、山博及び同友の会に係る会員及び市民を対象としたアンケート調査を実施した。

年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	総事業費(決算額)	146千円	2,335千円	7,466千円	
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
		一般財源	146千円	2,335千円	7,466千円

指標名		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度(H27)	達成率	次年度(H28)
指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	自然科学分野調査研究	件	1	2	3	2	150.0%	3
②	人文科学分野調査研究	件		1	6	2	300.0%	6
③	外部との協同研究	件	2	1	3	2	150.0%	2

1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度(H27)	達成率	次年度(H28)	
指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①						—	—	—
②						—	—	—
③						—	—	—

2. 数値で表せない効果  
(指標 ) 信州大学山岳科学研究所や長野県環境保全研教所等との協同研究により、カクネ里雪渓が氷河であることが確認されれば、学術的のみならず地域経済等へも大きな波及効果が期待できる。

**※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等**  
調査研究事業は直接的・具体的な成果が見えにくい。

項目	必要性		有効性		効率性		
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である
点数	3	2	2	3	2	3	
評価	方向性	担当部課等のコメント(評価結果による改善案や今後の取り組み方法等)					
	今後の方向性	継続	平成26年度から実施している鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査は、信州大学山岳研究所や長野県環境保全研究所、カルデラ砂防博物館と連携しながら調査を進めてきたが、度重なる悪天候等のため、平成27年度は氷体の移動調査のみとし気象・地質等の調査は平成28年度に延期することとなった。また、平成27年度よりスバルバルライチョウの飼育を開始したが、今後は飼育・繁殖方法の技術確立に向けた研究を進め、ニホンライチョウ飼育再開を目指し準備を進めていく。その他、各種研究機関や山博友の会と連携し現在進めているものについては、内容を精査した上で計画的に実施していく必要がある。				
	評価点合計	15	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館 係	事務事業No.	110615
事務事業名	山岳資料収集保管事業			会計	一般会計
まちのテーマ	潤いのあるまち			款	10 項 6 目 1
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化				
後期計画掲載頁	100・108・120 頁	個別計画	社会教育計画	33 頁	
事業期間	平成 年	～	平成 年	根拠法令・要綱等 博物館法	

**事業の概要**  
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

**事業の目的**  
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎とした教育普及活動を行うために、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理を行う。

**事業内容**  
寄贈・購入・製作による新規資料の受け入れと登録、収蔵資料の燻蒸などの管理、図書資料館へ収蔵する図書の登録・分類・燻蒸・配架の作業を行っている。

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	総事業費（決算額）	2,357 千円	4,231 千円	4,393 千円	
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
一般財源		2,357 千円	4,231 千円	4,393 千円	

活動指標			平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	新規収集資料	点	811	4,231	2,431	641	379.3%	2,000
	②	収蔵資料	点	20,962	24,683	25,244	25,000	101.0%	28,000

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①					—	—	—
	②					—	—	—

2. 数値で表せない効果  
（指標 ）・収集した資料を対象に調査研究を進めることができた。  
・資料の劣化を防ぎ、将来の資産とすることができた。

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等  
資料収集事業は直接的・具体的な成果が見えにくい。

評価	項目	必要性	有効性	効率性			
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	点数	高い	普通	高い	重複なし	普通	適正である
		3	2	3	3	2	3
今後の方向性	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	継続	博物館で取り扱う資料が明確に定まっていない部分もあるため、積極的な資料の発掘や購入に課題があり、資料収集の方針を構築する必要がある。収蔵庫の収納能力が限界に近くなってきているため、収蔵庫の効率的な収納システムや新たな収蔵施設について長期計画を立案する必要がある。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の改善が必要である。資料整理を進める中で、図書資料の重複分を整理することができたので今後も整理を進める。					
	評価点合計	16	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110616				
事務事業名	動植物飼育栽培繁殖事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等					博物館法	

**事業の概要**  
 貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究したりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を飼育・栽培し、展示を行う。

**事業の目的**  
 「自然と人が共生する山岳文化都市」の形成につながる活動の一つとして野生動植物の飼育・栽培・繁殖を行うことを通して、地域の博物館機能の充実を図ることを目的とする。

**事業内容**  
 生体展示として、生きている姿と命の大切さを伝える。飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動を実施する。傷病鳥獣を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。付属園の目的を達成するため、施設の整備を順次進める。

事業費	年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度
	総事業費（決算額）		8,213 千円	9,828 千円	8,598 千円
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	266 千円	246 千円	219 千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
一般財源		7,947 千円	9,582 千円	8,739 千円	

活動指標	指標名		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
	① 動植物種数		種	実績値 31	実績値 42	実績値 89	目標値 37	(%) 240.5%	目標値 90
	② 新規保護動物収容数		個体	実績値 9	実績値 6	実績値 0	目標値 0	(%) —	目標値 0
	③ 教育普及開催日		日	実績値 7	実績値 6	実績値 9	目標値 9	(%) 100.0%	目標値 7

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）	
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 動植物種数		種	31	42	89	37	240.5%	90
	② 保護動物収容数		個体	37	29	24	21	114.3%	21
	③ 教育普及事業参加者		人	535	815	740	550	134.5%	550
2. 数値で表せない効果 (指標 )									

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等  
 既存傷病鳥獣の野生復帰が困難な状況となっている。

評価	項目	必要性		有効性		効率性	
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	点数	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
	点数	3	3	3	3	2	3
今後の方向性	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	評価点合計	拡大 平成27年度にライチョウ舎3棟を建設したが、今後は更なるライチョウ飼育施設の増設を含む付属園の整備計画を進めるため、博物館の基本理念を基に、中長期の実施計画を立案し、管理運営体制と施設整備の両面から具体的な事業計画を作成する。また、そのための既存の整備構想の見直しについて検討する必要がある。 平成27年度は、施設整備構想見直しにおける傷病鳥獣の扱いの検討や、収容スペース等の現状を鑑み新たな傷病鳥獣の受入れは実施しなかった。					
		17	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110617				
事務事業名	ライチョウ飼育事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成											
後期計画掲載頁	100	頁	個別計画	社会教育計画						41	頁	
事業期間	平成	26	年	～	平成		年	根拠法令・要綱等				博物館法

事業の概要  
二ホンライチョウの飼育再開

事業の目的  
スバルバルライチョウの飼育・繁殖技術の確立や職員体制等の整備を図り、二ホンライチョウの飼育再開を目指す。

事業内容  
二ホンライチョウ導入に向けた体制整備  
スバルバルライチョウの飼育開始

年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	総事業費（決算額）	千円	5,323 千円	5,761 千円	
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
		一般財源	千円	5,323 千円	5,761 千円

指標名		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	ライチョウ飼育数				7	7	100.0%	11
②								
③								

1. 数値で表せる指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）	
指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①						-	-	
②						-	-	
③						-	-	

2. 数値で表せない効果  
 ・将来的に二ホンライチョウの飼育を開始することで、環境省が作成した絶滅危惧ⅠB類である二ホンライチョウ保護増殖計画の推進に寄与することとなる。  
 ・山岳文化都市としての魅力増やイメージアップに繋がる。

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等

環境省のライチョウ保護増殖計画に基づく国家的プロジェクトであるが経費負担は市が負っている。  
 今後、二ホンライチョウの飼育・繁殖事業を本格的に実施するためには、新たなライチョウ舎の増設が必要となる。

項目	必要性		有効性		効率性	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通
点数	3	3	3	3	2	3
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）				
	今後の方向性	拡大	二ホンライチョウの早期飼育再開を目指し体制を整備する。 スバルバルライチョウ飼育・繁殖技術の確立をめざし二ホンライチョウに应用する。 環境省、日本動物園水族館協会等関係機関との調整を行い、二ホンライチョウの早期導入について理解を求めると積極的な取り組みを行った結果、平成28年度にライチョウのファウンダー（卵）4個を導入できることとなった。			
	評価点合計	17	18			

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	1106124			
事務事業名	繰越明許費ライチョウ飼育事業					会計	一般会計				
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	山岳文化都市の形成										
後期計画掲載頁	100		頁	個別計画	社会教育計画				41	頁	
事業期間	平成	27	年	～	平成		年	根拠法令・要綱等 博物館法			

**事業の概要**  
平成26年度からの繰越事業である新ライチョウ舎建設（3棟）の完成

**事業の目的**  
平成26年度より建設中の新ライチョウ舎3棟をスバルバルライチョウ受入れ前（6月中旬）までに完成する。

**事業内容**  
ライチョウ舎（3棟）の建設工事完了（6月中旬）

年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費 財源内訳	総事業費（決算額）	千円	千円	43,525 千円
	国庫支出金	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円
	起債	千円	千円	40,400 千円
	その他財源	千円	千円	千円
	一般財源	千円	千円	3,125 千円

活動指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	ライチョウ舎数			3	3	100.0%	3
②							
③							

成果指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度（H27）	達成率	次年度（H28）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①					—	—	—
②					—	—	—
③					—	—	—

2. 数値で表せない効果

- 環境省が指定した絶滅危惧ⅠB類であるニホンライチョウ保護増殖計画の推進に寄与する。
- 山岳文化都市としての魅力増やイメージアップに繋がる。

**※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない場合の理由等**

繰越しの原因の究明及び今後に向けての対策

項目	必要性		有効性		効率性	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	評価	高い	高い	高い	重複なし	低い
点数	3	3	3	3	1	1
評価 今後の 方向性	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）				
	やり方改善 評価点合計	平成26年度中に完了しなければならない事業であったが、当時の担当者の過失等により設計業務が大幅に遅れたため、建設工事の工期に影響し平成27年度への繰越し事業となった。原因を究明し2度と同じ過失を繰り返さないよう万全な対応を図る。				
	14	18				